

東京三高会だより

第31号

平成26年6月1日発行

三木野々原



発行：東京三高会 青森県立三本木高等学校同窓会東京支部 発行責任者 佐々木文雄

事務局 〒335-0001 埼玉県蕨市北町 4-1-5-503 高谷隆二 Tel&Fax 048-442-5118 / 編集責任者 瀬戸口玲子

第35回記念総会・懇親会

卒業生によるミニコンサートの調べに、会場がひとつになりました。



平成25年7月7日(日)、創設35周年目となる記念の総会が、会員と来賓の方々総勢110名の参加のもと「リーガロイヤルホテル東京」にて盛大に開催されました。卒年が近い方たちと囲むテーブル、久しぶりの再会に会話が弾みました。

(詳しくは当会ホームページをご覧ください)



プロとして活躍する卒業生の演奏と歌唱でオープンした懇親会。母校やふるさとへの思いと、被災地・東北の復興を願う思いがつながりました。

母校の「職業研究」トークサロン 講師に招かれて

野坂かずお
(H5卒)
公認会計士 税理士

実社会で活躍する職業人との交流。
三高での学びの先にある、自分の未来が見えて来たに違いない。



昨年十月九日(水)、母校で第一回目の職業研究のトークサロンが開催されました。正式な講演名は「三本木高校平成25年度「職業研究」〈就くには? サロン〉」。青森県若年者就職支援センター(ジヨブカフェおもり)が後援し、多岐にわたり実社会で活躍する職業人と在校生の交流の機会でした。21の職種が講師に招かれて、私は税理士として東北税理士会十和田支部の推薦を受けて参加しました。

来初めてで、正直なところ、校舎はこんなに小さかったかな? と思いました。当時、理数科(9組)に在籍していた私は、勉強ばかりしていた(浪人時代を思えば、勉強不足だったと痛感)ので、母校の記憶が余りないのです。しかし、玄関左奥の集会室から会場の体育館に歩くうち、色々な記憶が蘇って来ました。



私自身、高校生の頃は、具体的な夢や職業を抱いてはおらず、漠然と、希望の大学に入れば将来が拓けると考えていました。今にして思えば、正直その考え方で良かったようです。対象が一年生ということもあって、具体的な職業意識を持っている生徒は半分ぐらいでは、という印象を持ちました。講演の内容は、税理士という職業の素晴らしさを語り、それに対する質疑応答で行われました。私のお話の中で特に興味を持たれたのは、三沢市で公認会計士・税理士

事務所(従業員5名)を経営し、かつ新宿区に公認会計士事務所(従業員なし)を有しているということでした。当事務所の税務顧問先約一五〇社の半分超が東京近郊の会社ですが、全ての作業を三沢事務所で行い、東京事務所では何の作業もしていません。現在ビジネスはメールを主とする時代ですし、郵送でも速達扱いであれば、都内に送るのも青森県に送るのも日数が同じ時代です。であれば、人件費も家賃も圧倒的に安価な地元三沢市に事務所を構えるのが良いと思って始めた経営方針です。そして気が付けばその結果として、三沢市民3名、おいらせ町民1名、七戸町民1名の雇用を支え、地域貢献にもなっています。また、このような講演会は職業の素晴らしさを語るだけではな



三沢市にある私の事務所付近からバスで十和田市に向かい、十和田市中央駅から徒歩で三高を目指したのですが、こんなに遠かったのかと思いました。母校に足を踏み入れるのは平成五年の卒業以



生徒らに囲まれて質疑応答。左が野坂和夫さん。

く、高校生の学習意欲を高めることを趣旨としなければなりません。「どうして今勉強しなければならぬのか、それは希望する大学に入るためです。将来就きたい職業がまだ見つからなくて当然ですが、大学での学びが視野を広げ、職業の選択肢も豊かになります。目指す職業に就ける可能性が高まります。だから今、勉強を頑張ってください」と締めくくりました。勿論、勉強や働くことには体

力も必要ですから、「部活動も張りなさい」と言及しました。ちなみに、毎年三沢市主催で小学生対象の同様な講演会があります。小学生にも同じ言葉で締めくくります。

また、今回の講師を引き受けた我々にとっても「一つ一つの積み重ねの重要性」を再認識させられるいい機会となったように思います。



左端の天然パーマが私。

学の甲子園全国大会へ県代表として出場したことも貴重な経験となりました。東京で出会った友人を「三本木夢と生命の森」に案内できるよう、自分自身も幹を太くし、葉を茂らせ、伸びていこうと思っています。

今井翠さん

私はお茶の水女子大学に進学しました。志望した理由は、国立大学で唯一舞踊の専門コースがあること。創作舞踊公演や数々のコンクールに出場する機会が多く、自分の技術を磨くと同時に、多くの人に感動を与えられると思ったからです。私は、高校入学当初からこの大学に進学することを目標に、勉強とバレエの両立を頑張って続けました。合格できたのは、先生方や友人、そして家族の支えがあったからです。

大学生生活は不安もありますが、新しい発見や出会いを思うと楽しみで仕方ありません。バレエダンサーになるという夢を叶えるべく、勉強とバレエのレッスンだけでなく、感性を磨くために様々な芸術に触れるなど、積極的に挑戦していきたいです。



前列左から二人目が私。

三本木高校付属中学から卒業までの6年間は充実した日々でした。特にスーパーサイエンススクールでの活動が進路を決めました。推薦の面接で附中時代からの「植樹活動」について伝えた時、「三本木高校で森づくりとは素敵なことですね」と褒められました。また、科

三高卒業おめでとう——H26年3月卒のみなさん

佐野ひかりさん

私は筑波大学に進学しました。子供の頃からテレビやパソコンが好きで、パソコンでの映像制作や映像処理を学びたいと思いました。姉から筑波大学にそのようなことを専門的に学べる学科があると聞き、調べてみて自分のやりたいことが出来るのではと思って志望しました。



左から二人目が私。

将来は人を楽しませる映像を作る仕事に就きたいと思っています。最近ではプロジェクションマッピングなどの映像技術が注目を集めていますが、まだ開発中の新しい技術もたくさんあります。それらの技術を実用化し、見る人が作品に参加して楽しめる映像を作りたいです。

野坂創一くん

私は中央大学に進学しました。中央大学は祖父の母校であり、幼い頃から憧れの大学でした。私は理工学部で「安心・安全な国土作り」の研究をしたいと考えています。

三本木高校付属中学から卒業までの6年間は充実した日々でした。特にスーパーサイエンススクールでの活動が進路を決めました。推薦の面接で附中時代からの「植樹活動」について伝えた時、「三本木高校で森づくりとは素敵なことですね」と褒められました。また、科

日本の英語教育を変えたい

いがらし あきこ
五十嵐 明子 (S31年卒)
NPO法人グロウバル言語文化 研究員



日本は世界に名だたる「英語が通じない国」です。大学まで10年間学習した人でも話せない人が殆どだからです。努力家の日本人が時間をかけて勉強しても話せないのは、中学校入学以来、書く試験に合わせた学習を強いられるからです。社会に出てから英語を空で書く機会があったでしょうか。大方の人は無いと思います。一方「英語が話せたらなあ。」と思う場面は沢山あるのではないのでしょうか。

私は日本で最初に「幼時からの英語教育を始めた民間の教育機関で、話す英語教育の指導員をしてきました。その仕事を通して、日本人が英語を話せないのは学校の英語教育が間違っていたからだと思うに至りました。

「英語が話せる日本人」を育てるために、二〇一一年に「外国語活動」として小学校五年生から英語が必修になりましたが、中央教育審議会が20年近く模索、検討して始まった「外国語活動」は週一回、指導者は、促成の研修を受けた担任

の先生と研修を受けていない外国人の英語助手です。教材は教室で使うための質素なCDと、補助教材と呼ばれるテキストです。小学校英語教育は古く、既に一八八六(明治19)年から、五年生の年代に週3時間もの授業が始まっています。適切な指導員がいないことを嘆く新聞記事が残されていますが、現代も同じことを言っています。授業数は今より多く、中学校では6時間もあったのです。歴史はこれまでの教育では話せないことを立証しているのですが、それなのに文科省は、又、似たような教育を始めようとしています。

現在の日本は主なアジア諸国に比べると、小学生への英語教育の最後進国です。五年生からでは遅いと気付いた文科省が三年生からの導入を昨年決定しましたが、実施は7年後の二〇二〇年だそうです。アジア諸国との差はますます開きます。韓国の教育は工夫された教材で自ら学び留学生はよく英語を話します。国民が役に立たな

い英語教育を従順に受けていると日本の将来は危ないと思います。日本の英語教育を改善したい一心で本を書きました。

- 『仕事で英語が使える日本人を育てるために必要なこと』
- 第1章…これでもいいのか、日本の英語教育
- 第2章…言語獲得のメカニズム
- 第3章…幼児と英語
- 第4章…始まった「外国語活動」の何が問題か
- 第5章…さらなる改革への提言
- 第6章…「生きる力」(指導要領の目標とは

私の人生初めての英語体験は四、五歳の時の、父親の英語ストーリーテリングです。その物語が中学の英語の教科書に出てきて、それから一層英語に親しむようになりました。三高では、英語部に入りました。部長の植田紀子さんから何度か英語を教えてもらいまし

た。二年次に、会話が堪能な安藤先生が赴任され、三沢の米軍基地内の高校見学に連れていってもらいました。女子生徒に「Which do you like, coffee or coke?」と聞かれたので5人の希望をまとめて「We prefer coke.」と答え、これが外国人と交わした最初の英語で

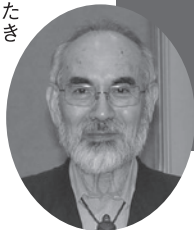
した。この時、初めてコココーラを飲みました。それからロレタ・ロビンソンという女の子と、文通を始めました。通信販売用のカタログを貰い、住宅、インテリア、ファッション、見たこともないお菓子類の説明文を辞書を片手に読みふけりました。高校程度の英語

力で十分読め、一般のアメリカ人もこれ位の英語で生活しているのだと分ります。今も本棚にあります。三沢の米軍基地で得た生きた英語の体験は進学後も役に立ちました。高校時代は人生の進むべき道の芽が出始める大切な時期なのだと思います。(杉並区在住)

【書評】

英語が話せるようになるには？がわかる力作

高村 弘毅 (S31年卒) 立正大学名誉教授



著者は、かねてより幼児から大学生の年代までの外国語教育、特にリスニングによる教育の重要性について関心を持ち、ラポやヒッポ、グロウバル言語文化研究会などの組織に関わってきた。本書はその集大成といえよう。著者はこれまでいくつかの外国語教育教材の単著と共著を

刊行しているが、本書を書くころと思ったきっかけは、アジア各国、特に韓国における小学生の英語教育のあり方に共鳴したことにあるようだ。

著者の着想は、英語で論文は書けても国際会議などでプレゼンテーション、スピーチ、質疑応答が出来ないなど、日本の学校英語教育に疑問をもったからに他ならない。私も何度も体験したことだ。著者は早くから幼児用のラーニングCDなども作り、わが国の英語教育が抱える問題点を示唆してきた。

第1章〜第4章までは、わが国の英語教育の先達に準拠して過去と将来の英語教育の問題点について述べ

ている。特に第4章では、小学校五、六年生に必須化された英語教育の指導要領を概説。小学校低学年への導入も極めてのんびりしたもので、国際情勢への立ち遅れを深刻に受け止めていないことを懸念している。第5章では、義務教育での英語教育の目標や高等学校卒業までの到達目標など、経験を生かして詳説。第6章では、前述の研究会の卒業生からの寄稿文を例に、文科省が目標とする課題に到達できることを証し、強調したいところを具体的に示している。今後の英語教育はスキル向上に軸足を置き、異文化まで教えるというのではなく、国際性を進化させるための道具として位置づけて良いのではとし、その効果を上げる手法まで実例を挙げて提案している。

幼児、小学生等を持つご父母や英語を担当する先生方はもとより、高校生や大学生、社会人にいたるまで必読して欲しい本である。(多摩市在住)

『仕事で英語が使える日本人を育てるために必要なこと』
五十嵐明子著
発行：(株)冬舎ルネッサンス
新書版／定価(本体838円+税)



会員からの便り

死線を乗り越えて
「国づくり」

あらやしき みちやす
新屋敷通保 (S38年卒)
公益財団法人オイスカ理事

私は、日本に本部を置き、主にアジア・太平洋地域で農村開発や環境保全活動を展開する公益財団法人で、各国の人材育成に力を注いでいます。

小学六年の時、「少年の集い」に学校を代表して参加することになりました。そこで板柳町から来た代表と仲良しになりました。相撲



中央は、研修の成果を喜ぶササナグスマン大統領(左)と私

取りのように体が大きい彼は、小柄な私の面倒を良く見てくれました。その時、人を思いやる心の温かさを感じました。将来大人になったら、人のために尽くす仕事をしたいとぼんやり思っていました。それが今日に繋がっています。

一例として、インドネシアでは5年かけてマングローブを植林し、ジャカルタの海岸線の浸食を食い止めました。今そこに記念碑が建てられています。

海外活動に今も関わっています。特に思いの大きかった東ティモールのお話をしましょう。

二〇〇二年八月、インドネシアからの解放を勝ち取り21世紀最初の独立国となった東ティモール初代大統領サザナ・グスマン氏からの「ぜひ農民に農業を教えて欲しい」との依頼で同国に赴任しました。ところが与えられた土地は雑木が生い茂る荒地で、畑になるとは想像もできない劣等地でした。

しかし、やるしかない。すぐに村人を八人雇い、10ヘクタールも土地をナタの少し長い道具だけで、一本一本雑木を切り倒していききました。日中の気温は約35度。疲労も限界にきた約三か月後のある日、頭が燃えるように熱く痛く、ついにベッドに倒れ身動きできない状態となりました。意識が薄らぎ死を感じました。偶然に訪ねて来た現地の友人が私の姿に驚き、病院に担ぎ込んでくれました。重度脳性マラリアと判断されました。それは死を意味する言葉でもありません。その後、奇跡的に一命



また果物の木を育てるのが私の夢でしたので、予定通りマンゴ、パイナップル、ミカン、ジャックフルーツ、バナナ、パイナップル等二千本の果樹の栽培を手がけました。水源のないこの地では、稲作とブドウ栽培は不可能だとされていましたが、雨期の雨水を利用して見事に成功させました。これには大統領も驚きました。二年間の滞在中には、村人とのトラブルも含

皆さんの近況やご意見、思い出など、ぜひ気軽にお寄せ下さい。
メールアドレス:r.setoguchi@tokyo-sanko.net Fax 042-664-0940
編集責任者 瀬戸口玲子(S41年卒)

縁ある人々に
「美と健康」を届けて

たなか なおみ
田中奈穂美 (S55年卒)
美容師・健康関連品販売会社経営

卒業してから、何年が経つのだろうか……。東京三高会を知るまで振り返りもしなかったと言うか、振り返る時間もなかった学生時代。懐かしさを感じるのには、やはり年月が経ち、あの頃の思い出を再び心に向かいいれる余裕もできたのであろうか。

高校卒業式の次の日に寝台列車で約15時間、憧れの東京に着いた。雨戸を下さなければならぬ閉鎖的な部屋は、十和田でのびのび育った環境とはあまりにも違っていた。日中の華やかさと夜のギ



ヤップ、憧れの東京に胸弾ませ上京する時とは、かなりかけ離れたものだった。何かになりたいという目的があったわけでもなく、ただ東京に憧れ、十和田を脱出したかと思っていた私、今では青森で暮らした年月よりも、東京での生活が長くなってしまった。

二十代前半、美容師となった私は、今はもう目にすることも少なくなりましたが、着物姿の艶やかな女優さんのカレンダー撮影のアシスタントをするまでになっていた。美しい女優さんに接しながら、華

やかさやその輝きにすっかり魅了された私は、「これこそが東京!」と思った(笑)。

その後、私は一部上場企業である美容院の原宿店オープニングスタッフとしてスタート。ちょうど日本は勢いに乗る80年代、美しさに関わる美容師という職業は、キラキラと輝く時代そのもの、若さも加わって夢中で楽しい時間だった。そして三十代は、店長となり、経営を任されるようになっていた。

現在は千代田区麴町で、縁あって「美と健康」をコンセプトにした会社を経営している。光電子放射繊維を使用した寝具やサポーターなどの医療用・健康用製品、健康食品、健康補助食品、健康飲料などを販売するかわら、美容室も併設経営し、充実した毎日を送っている。皆さんの笑顔に接するたびに、人に喜びと感動を与える仕事ができる幸せを感じている。人生は全て人との縁である。

この三高会で母校との縁を再確認、思いがけず恩師との再開もできた。また、親や親戚を介して、その知り合いの方ともつながっていく縁に驚きと感動を実感している。これから三高会でどんな方々と出会えるのか、とても楽しみです。(文京区在住)

第36回東京三高会総会・懇親会にご参加ください



日時 平成26年7月13日(日)
午後1:00 受付開始
午後1:30~4:30 総会・懇親会

会場 学士会館バンケットルーム
210号室
東京都千代田区神田錦町3-28
Tel 03(3292)5936
URL <http://www.gukusikaikan.co.jp/>
会場までのアクセスは、案内状に同封の詳しい地図を参照

会費 男性、女性とも8,000円
(年会費2,000円含む)
新卒生の皆さんは無料招待

事務局 高谷隆二(S40年卒)
連絡先は会報表紙上部に記載

★総会欠席会員の方へのお願い
年会費「2,000円」をお振込みください
(会費とは会報制作・発送・ウェブサイト運営・総会会場費などに使われる費用です)
郵便振込口座記号
0019-5-362825 「東京三高会」宛

東京三高会
オフィシャルサイト
世代を超えて

<http://tokyo-sanko.net/>

東京三高会役員

(任期：平成26年7月～平成28年7月総会まで)

名誉会長	下佐 剛	卒年 (S28)
顧問	佐藤 中	(S32)
	野呂 義春	(S32)
相談役	阿部 光成	(S28)
	野口 宥子	(S30)
	前川 十志男	(S31)
	村中 弘	(S32)
	下山 雅章	(S33)
	漆畑 満	(S34)
	堰野端富志男	(S38)
会長	佐々木 文雄	(S36)
副会長 (事務局長)	北川 和子	(S30)
	高谷 隆二	(S40)
理事	佐々木 賢明	(S40)
	富田 俊一	(S43)
	畠 雅仁	(S47)
	藤本 モミ	(S29)
	五十嵐 明子	(S31)
	高松 重光	(S36)
	(会計) 高坂 忠	(S37)
	(会計) 田制 則子	(S37)
	(会計) 鈴木 朋子	(S38)
	(会計) 馬場 洋子	(S38)
(広報)	三浦 景子	(S38)
	瀬戸口 玲子	(S41)
	望月 福子	(S42)
	岸 綾子	(S46)
	坂田 俊英	(S55)
	田中 優子	(S58)
	辻 まり子	(S47)
監事	野坂 和夫	(H 5)
	川原 淳	(S56)

編集室だより

●会報「三木野ヶ原」は、三十一号目となる今年、スタイルを一新しました。より親しみ易い会報を、考えた結果、このような小振りな冊子型になりました。新しい版型の中に、会員の皆さんの様子や「本校の今」を伝える内容を出来るだけ盛り込みたいと思っています。

●会報作りでいつも感じるのは、原稿を書いてくれる方に恵まれていること。こちらの急な依頼にも快く書いてもらえ、これほど感謝なことはありません。今回はどんな先輩・後輩に出会えるだろうと、毎回わくわくしています。会報は本校の新卒生にも配布されるので、皆

様の多様なオピニオンは三高生の絆をぐんと深めてくれるのでは。ぜひ情報をお寄せ下さい。

●今年の総会・懇親会は会場も一新。ゆっくり交流を楽しんで貰うには、やっぱり着席・卓盛料理がいいね、ということになりました。大勢のご参加を期待しています。(S)